

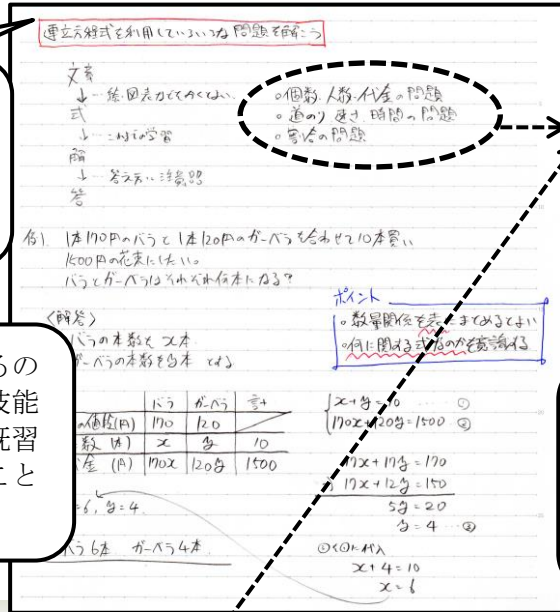
はじめに

今年度は「構造的な板書の工夫」を中心に実践を進めた。
特に、『会津教学「教えの心得」』にも挙げられている
【本時のめあてを板書し、まとめを行う】ことに重点をおいて
指導にあたった。

○ノートのイメージから板書計画をつくる

【実践事例Ⅰ 2年 連立方程式（連立方程式の利用）】

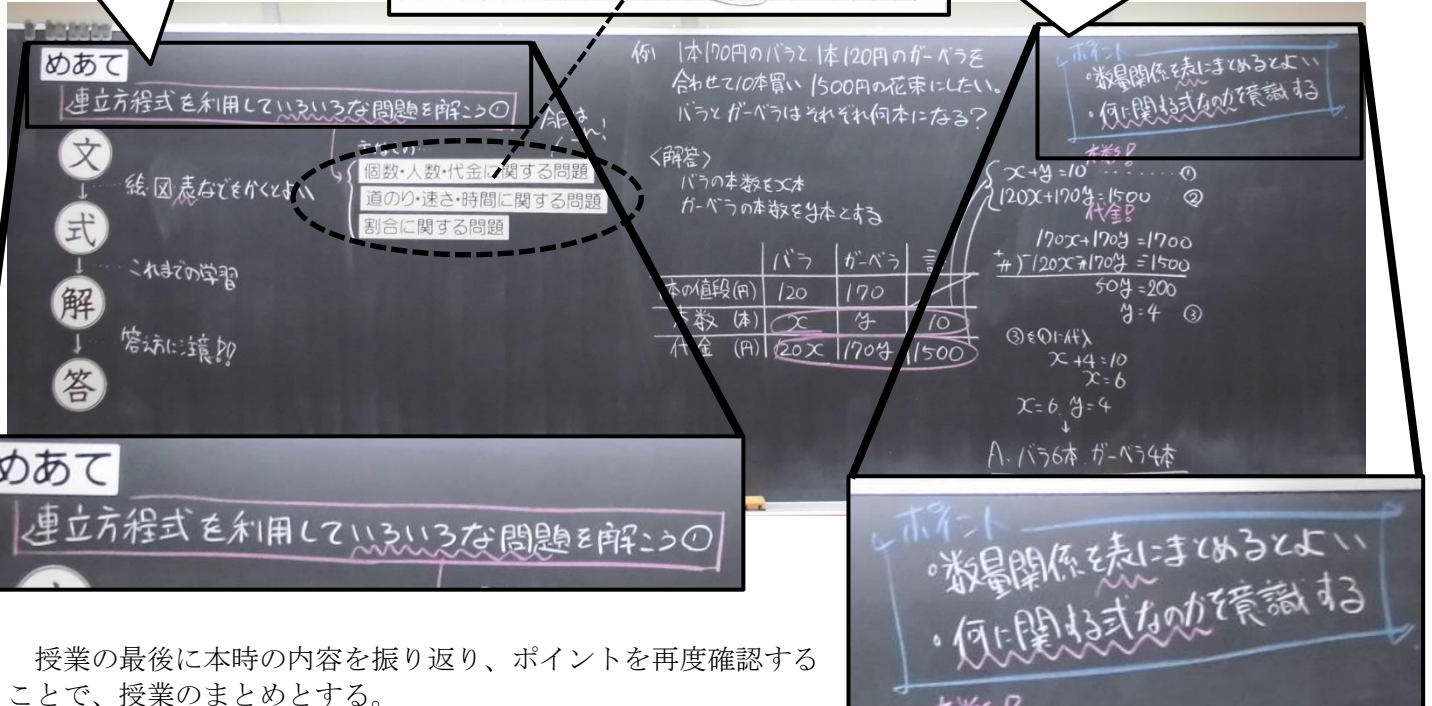
ノートのイメージ（メモ）



生徒がまとめるノートのイメージをつくる。
(走り書きであり時間をかけずに、メモ程度で...)

その授業のねらいが何であるのか（理解することなのか、技能を定着させることなのか、既習事項を活用して問題を解くことなのか）を明確に示す。

板書



会津教学「教えの心得」

- 1 授業の開始時刻と終了時刻を厳守する。
- 2 本時のめあてを板書し、まとめを行う。
- 3 児童生徒の考えを引き出す工夫をする。
- 4 児童生徒の「よさ」を見つけ、ほめる。
- 5 職員室で授業について話し合う。

「連立方程式の利用」の主な出題パターン

- 個数・人数・代金に関する問題
- 道のり・速さ・時間に関する問題
- 割合に関する問題

→本時では「個数・人数・代金に関する問題」を解くことを授業の最初に確認する。

その授業で特に重要な点を、「ポイント」として明確に示す。授業の内容によっては、授業の終盤に限らず、中盤や序盤に「ポイント」を示すこともある。

授業の最後に本時の内容を振り返り、ポイントを再度確認することで、授業のまとめとする。

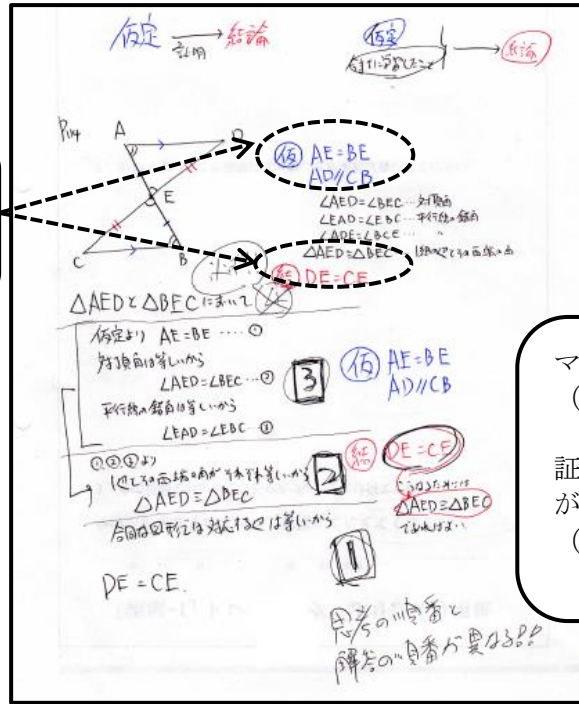
生徒の感想から...

- 黒板も分かりやすくまとめられていて理解しやすかったです。
- 授業のはじめには「めあて」、おわりには「ポイント」が書かれていたので分かりやすかったです。
- ポイントやめあてが分かりやすく、頭の中で整理しやすかったです。
- ポイントを明確にして分かりやすくまとめてあって、より深く理解することができました。

【実践事例Ⅱ 2年 平行と合同（合同な図形）】

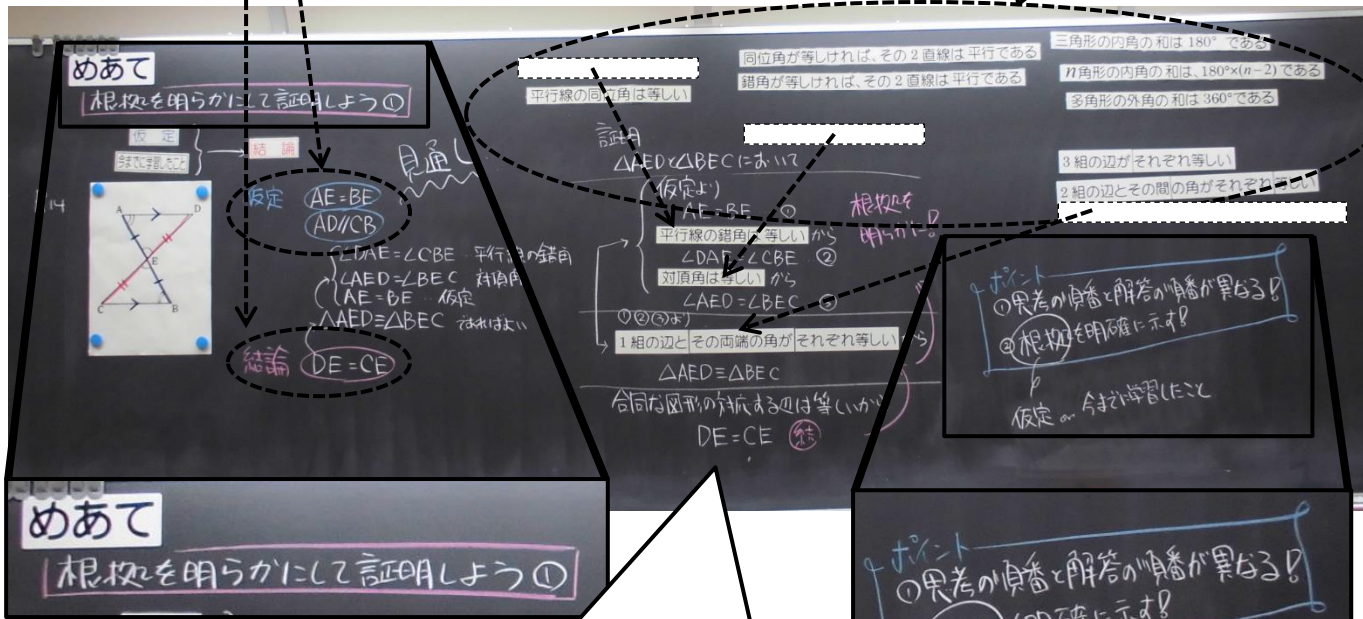
ノートのイメージ（メモ）

「仮定」を青、「結論」を赤で書き、図形の中にも同じ色で示す。



マグネット付フラッシュカード
（証明の根拠としてよく使われる定理）
証明に必要な定理のカードを移動しながら証明を考える。
（証明に必要な定理を頭の中で選択するイメージを可視化して示す。）

板書



証明のすすめ方（書き方）について…
『（根拠）より
△△=□□』
『△△=□□…（根拠）』
さまざまな書き方があるが、
① 等しい辺や等しい角を正しく示すこと
② その根拠となること（根拠）を正しく示すことができる
ができていればよいということを確認する。

生徒の感想から
○証明の書き方など教えていただき、すごく見やすく書くことができました。
○数字や図形を頭の中で色で分けて考えるといった方法は、今までの僕の数学への考え方が少し変わるきっかけになった気がします。
○黒板にはるカードがあってとても覚えやすかったです。

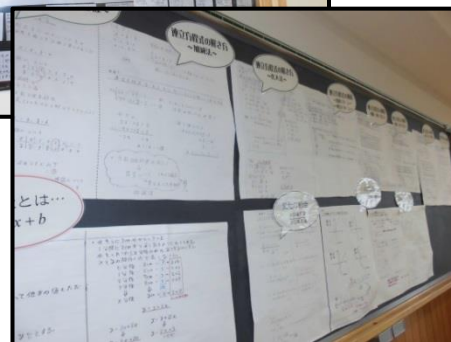
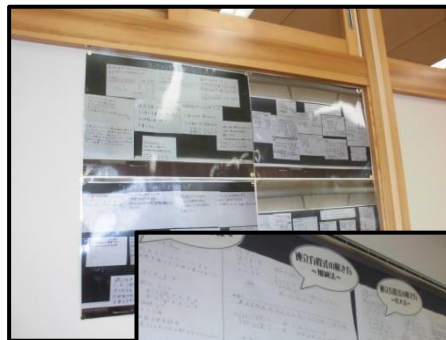
○生徒のノートのコピーを掲示する

・本務校（北会津中学校）での取り組み

授業での黒板の写真や生徒のノートの拡大コピーなどを教室内に掲示したことにより、理想的なノートの取り方を学級全体で共有でき、「次の単元では見本になれるように頑張ろう」という感想もあるなど、学習意欲の喚起にもつながった。

学習内容の振り返りの際にも掲示したノートを活用し、系統的な理解や継続的な指導につなげることができた。

※ なお、本務校では教科教室型の指導のため、数学科としての掲示がしやすい環境である。通常の教室での掲示については工夫が必要になる。



おわりに

構造的な板書の工夫として実践例であるが、これは、生徒がノートをまとめる力をつけることができるようにという意図で行ってきたものである。しかし、ノートをまとめる力を身に付けることは目的ではなく、あくまでも学力向上のための手段であると考えることが大切である。ノートをしっかりとれるようにすることで、知識をまとめ組み立てて記述する力、問題を見たら反射的に手が動くスピード力等がついてくるものとする。

生徒からは「黒板が見やすかった」「ノートがとりやすかった」という声があった。その一方で、板書のイメージを固めすぎると授業の中での生徒の発言や考えを反映しにくくなるという点が課題として挙げられる。授業の流れを見極めながら授業を構成・コーディネートし、ポイントをしっかりと押さえた構造的な板書をしていくことが重要である。そのことで、生徒がノートをまとめる力を身に付けることができ、確かな学力の向上につながっていくものとする。